

参加者  
秋元、市ノ川、伊東、桑森、古宇田、小海、田中、  
鳥飼、中島、並木、吉川、松田、山岡、遊佐、  
ゲスト-藤野(鳥飼さん友人)、お見送り-安田、横関、

July 4, '99

BMW RS Club

# かわらばん

つかの間の梅雨の晴れ間に爽やかな高原での一日  
かわらばん-中島邦雄 摘絵-小倉玲子

関東地方が梅雨前線でスッポリと覆われ、うとうしい日々になんとも気の沈む毎日です。七日から始まった「入谷鬼子母神」の朝顔市で買った行灯(あんどん)造りの朝顔を眺め、熱い風呂を浴び枝豆を肴に冷えたビールを飲んでも、何か一つ心が満たされず、バイクで飛び回ることもできずに、悶々(もんもん)とした気持で日々を送っているのが、毎年のこの頃なのではないでしょうか。

こんな時に高い山々には、冬の厳しい条件にも生き残ってきた高山植物が、この時を待っていたかのように、色とりどりに可憐な花を咲かせ、苦しみながら登って来た人々に、一時の安らぎを与えてくれています。そんな花々を眺めながら、よく冷えたビールを飲んでみたらどうかと考えてみました。

そこで七月の声を聞いてすぐに、日本のエーデルワイスと言われるハヤチネウスユキソウが咲き、「遠野物語」にも数々の民話が語られ、高山植物の宝庫といわれる早池峰山(はやまねさん1914M)に登ってきました。岩手県花巻の奥に聳えるこの山は、宮沢賢治が心から愛し、登りから下りまで総てが岩山というキツイ山でしたが、頂上を遙かに望む辺りは、白い星の形をしたハヤチネウスユキソウやミヤマオダマキが咲く花畠で、頂上の草原の縁にはヨツバシオガマが群生し、アオモリトドマツの風衝木と巨岩と草花が織りなす様は、本当に自然の見事さの一語につきました。可憐で纖細そして清麗で幽玄とでも表現したい感じの花々でした。イワカガミやキスミレそしてチングルマ、ミヤマハンショウズルやナンブトラノオ等が、梅雨空に腐り切っていた心に、一服の清涼剤をもたらしてくれたかのようでした。爽やかな花々の姿が今も目に焼き付いている思いです。ちなみにビールは寒くて飲む気になれませんでした。

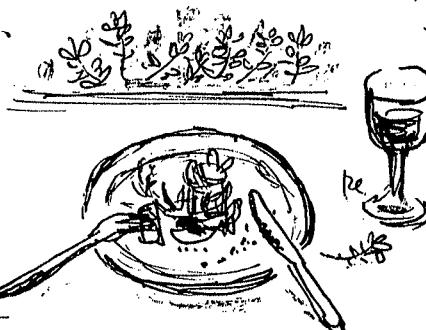
天気予報はズ~と雨模様とのご託宣。週末も雨とのことで前夜も遅くまで飲み、朝方になって外を見るとナントお天気。慌ててバイクを引き出して集合地の「三芳SA」へ急ぎました。誰しも考えは同じと見え、遊びに行くのを諦めた人が多いらしくて、道路はガラガラの状態でした。

時間までに13名のメンバーが顔を揃え、時間になるとすぐに第二集合地の「上里SA」に向けてブッ飛び開始です。走り始めるとすぐに秩父の山々が左手に重なり合い、谷川連山が前方にクッキリと浮かび上がって見えてきました。「上里SA」で市ノ川、秋元、そして松田さんの3名が加わり、午後から予定の有るという(我々は飲み過ぎで体調不十分に違いないと話し合いましたが)安田さんが帰り、三芳で横関さんが帰ったので、計14台での出発となりました。

空は益々晴れ渡り、前日までの雨に洗われた木々の葉が、澄みきった大気の中にまぶしいように輝いて見えました。上信越道「下仁田IC」で高速を降り、コンニャク街道と呼ばれる旧道を内山峠を目指して走ります。すぐに妙義山の荒々しい岩山が右手に現れてきました。さらに佐久方面へ向かって走り、昨日までの雨で濁流と化した千曲川を渡りましたが、「小諸なる古城のほとり~」で始まる島崎藤村の「千曲川旅情のうた」の爽やかさからは、思いもよらない状況でした。八千穂を過ぎよいよ麦草峠に向かうと、遙かな山の上の方が暗くなり、厚い雲に覆われてきたではありませんか。先頭を走る田中さんから「引き返しますか?」という無線が入りましたが、蓼科へ行かないことには昼飯が食えないで、ニンジンを目の前に見せられた馬のように、そのまま先へ進みました。

標高2000メートル余りの麦草峠は、メッシュのジャンパーを通して冷気が肌を刺し、どこか別の場所へ来たかのようでした。周囲には白い木肌に青々とした葉を付けたシラカバの林がどこまでも続き、冴えた高い声で鳥のさえずりが聞こえてきました。ややガスった中を自分のエンジン音を響かせ、それにシビレながら走り抜けました。嬉しいことに山を下ると天気は段々と回復し、緑の木々の中に薄日が差し始めました。蓼科高原の中を気持ち良く走り抜け、12時15分に今日のお食事処「蓼科東急リゾート」という、薄汚れたバイク野郎には少々場違いな感じの、とても瀟洒(しゃうしゃ)なホテルに入りました。

大きな暖炉を囲むようにして座り、タキシード姿のボーイさんにかしづかれての食事で、ヤロー同士では些か勿体ないような(?)感じさえしました。大きなガラス戸の外は木々の緑に包まれ、木漏れ日がさして、とても穏やかな気分になりました。前の晩に遅くまで飲んでレモン・スカッシュやミルクを飲んでいた人も居ました。殆どのメンバーが帆立貝、鱈、ホッキ貝のムニエル香草風味の



Bセットとビールを注文しましたが、余りに上品でラーメンかワンタンでも食べなくなりました。周囲は静寂そのもので、我々の声のみが響く感じでした。外に出るとそこへ桑森さんが到着し、彼は飯も食えずに、そのまま出発となっていました。30分ばかり遅れて来て我々の後を追い続けたとの事でしたが、どんなにか腹が減っただろうと同情しましたが、出発とあっては仕方がありません。

何時もでしたらこれから再び走り回るところですが、梅雨どきの天気ということもあり、蓼科高原を抜け「諏訪南IC」へと走り継ぎ帰途に就きました。途中で居なくなったメンバーも全員が此処に集まり、一斉に「双葉SA」へ一気に走りそこで解散となりました。高速に入ってすぐに覆面パトカーに捕まつていり車がいました。2時半に「諏訪南」を出発し、途中で休んだのに5時に文京区の自宅に帰り着きましたが、距離から考えると大分飛ばしていたことになります。今日の幹事の田中さん、ご苦労さまでした。おかげさまで楽しく遊ばせて頂きました。

8月は夏休みです。バイクも体も充分に整備(?)して、また9月に元気にお会いしましょう。